広 島 県 感 染 症 発 生 動 向 月 報

［ 広島県感染症予防研究調査会 ］

（ 令和８年 10 月解析分 ）

広島県　つつが虫病　検索

１　今月のトピックス

■ つつが虫病に注意しましょう！

○ つつが虫病は、ダニの仲間であるツツガムシによって媒介される感染症です。
○ 潜伏期間５～14 日の後、高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられます。その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになります。
○ 予防のためには、ツツガムシに吸着されないことが大切です。
○ 秋に、農作業や山菜採り等、野外で活動をする際は、注意しましょう。

■ ツツガムシについて

・　ツツガムシは土壌中で生活していますが、一世代に一度、卵からふ化した後の幼虫期にだけ地表に出て、哺乳動物に吸着し動物の組織液を吸います。
・　ツツガムシの 0.1～３％が病原体（つつが虫病リケッチアという細菌の仲間）を持っていると言われており、病原体を有するツツガムシに吸着されたときに感染が起こります。
・　広島県で確認されているタテツツガムシおよびフトゲツツガムシはほぼ全国に分布し、秋～初冬にふ化し地表に出てくるため、この時期に患者の発生が多くみられます。
　降雪のある地域では、一部のツツガムシが越冬し、融雪と共に活動が活発になるため春～初夏にも発生がみられます。
・　ツツガムシ自体は 0.2～0.3㎜ 程度と非常に小さく、肉眼での確認や、吸着されたことを自覚できることはほとんどありません。



フトゲツツガムシ幼虫の標本

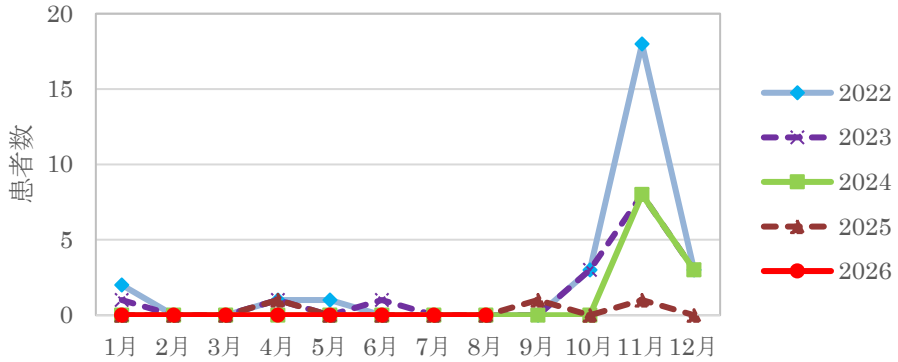
■ つつが虫病にならないためにできること

・　ツツガムシの吸着を防ぐことが重要です。農作業や山野で活動する際は、以下の対策をしましょう。
☑　長袖、長ズボンを着用して皮膚の露出を避けましょう。長靴をはくのも良いでしょう。
☑　袖口やズボンの裾を入れ込んで、ツツガムシが服の中に入り込めないようにしましょう。
☑　肌が出る部分には、防虫スプレーを使用しましょう。
☑　作業後は、体や服を野外ではたき、帰宅後は入浴して身体をよく洗いましょう。
　また、着ていた衣服は放置せずすぐに洗濯しましょう。

■ 野外活動後に発熱等があれば医療機関を受診しましょう

・　感染した場合は、早期に適切な抗菌薬治療を行うことが重要です。
・　農作業や山に行った後に、高熱等の体調不良があれば、医療機関を受診しましょう。

広島県における
つつが虫病の月別発生数
（2022 年～2026 年 8 月）



2 疾患別定点情報　　【速報値】

（1） 定点把握（週報）五類感染症

令和8年9月分（令和8年9月7日～令和8年10月4日：4週間分）

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	急性呼吸器感染症(ARI) ※2	15,673	42.13	-	↑	11	突発性発しん	42	0.19	0.25	↓
2	インフルエンザ ※3	1,442	3.88	0.68	↑	12	ヘルパンギーナ	55	0.25	0.48	↓
3	新型コロナウイルス感染症(covid-19) ※1	410	1.10	-	↑	13	流行性耳下腺炎	7	0.03	0.03	
4	RSウイルス感染症	102	0.46	0.92	↑	14	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.01	
5	咽頭結膜熱	105	0.47	0.25	↑	15	流行性角結膜炎	14	0.18	0.68	↓
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	288	1.29	1.14	→	16	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	
7	感染性胃腸炎	939	4.19	2.92	↑	17	無菌性髄膜炎	2	0.03	0.02	
8	水痘	37	0.17	0.08	↑	18	マイコプラズマ肺炎	40	0.50	0.72	→
9	手足口病	110	0.49	1.41	↓	19	クラミジア肺炎 ※4	0	0.00	0.00	
10	伝染性紅斑	2	0.01	0.30		20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.01	0.00	

※1 R5年第19週(5/8～)から五類に変更。※2 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、医師が感染症を疑う外来症例に該当する患者数を計上(他の定点把握疾患として報告されている患者数(No.2～6及び12)を含む) ※3 鳥インフルエンザを除く ※4 オウム病を除く

（2） 定点把握（月報）五類感染症

令和 8年9月分（9月1日～9月30日）

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
21	性器クラミジア感染症	59	2.68	3.14	→	24	淋菌感染症	14	0.64	1.06	↓
22	性器ヘルペスウイルス感染症	21	0.95	0.95	→	25	ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ブドウ球菌感染症	64	3.20	3.32	↓
23	尖圭コンジローマ	13	0.59	0.71	→	26	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0.00	0.12	

※「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当たり）　　※ 報告数が少数（10件程度）の場合は発生記号は記載していません。

※ 「薬剤耐性緑膿菌感染症」は、2026.4.6から「多剤耐性緑膿菌感染症」に名称変更され、また、全数報告に変更されましたので5月からは月報対象外になりました。

急増減疾患！！（定点当たり前月比2倍以上増減）

○急増疾患　インフルエンザ　（ 0.66 → 3.88 ）
○急減疾患　なし

発生記号（前月と比較）

急増減	↑ ↓	1:2以上の増減
増 減	↗ ↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗ ↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症（週報対象20疾患、月報対象6疾患）について、県内154の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1、2、3	1～13	14、15	21～24	16～20、25～26	
定点数	37	56	19	22	20	154

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況　　【速報値】

類別	報告数	疾患名（管轄保健所）
一　類	0	発生なし
二　類	33	結核(33)〔西部保健所(1)、西部東保健所(5)、東部保健所(3)、北部保健所(1)、広島市保健所(17)、呉市保健所(2)、福山市保健所(4)〕
三　類	6	腸管出血性大腸菌感染症(6)〔西部東保健所(1)、広島市保健所(3)、福山市保健所(2)〕
四　類	22	レジオネラ症(11)〔西部東保健所(3)、北部保健所(2)、広島市保健所(6)〕
		重症熱性血小板減少症候群(SFTS)(2)〔広島市保健所(1)、福山市保健所(1)〕
		日本紅斑熱(9)〔東部保健所(6)、福山市保健所(3)〕
五　類	28	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(2)〔広島市保健所(1)、福山市保健所(1)〕
		クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所(1)〕
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症(4)〔東部保健所(1)、広島市保健所(2)、福山市保健所(1)〕
		侵襲性インフルエンザ菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕
		侵襲性髄膜炎菌感染症(1)〔西部保健所(1)〕
		侵襲性肺炎球菌感染症(1)〔福山市保健所(1)〕
		多剤耐性緑膿菌感染症(1)〔西部保健所(1)〕
		梅毒(14)〔西部保健所(2)、西部東保健所(1)、東部保健所(2)、広島市保健所(5)、呉市保健所(3)、福山市保健所(1)〕
		百日咳(3)〔広島市保健所(1)、福山市保健所(2)〕